

News Letter

自治医科大学附属病院 卒後臨床研修センター

平成
30年
9月

朝夕はめっきり涼しくなりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。さっそく Newsletter 第7回配信です！ どうぞお楽しみください。

〈 診療科紹介 眼科 〉

健康な体があつての眼ですが、どんなに健康でも眼が見えづらければ、患者様の望む生活が送れないこともあります。特に、栃木県周辺は、高齢者も車の運転ができないと通院も買い物もできません。良好な視機能を保つために、眼科という診療科はとても大切な分野です。

自治医大眼科は、教授を筆頭に18人の医局員で診療にあたっております。出身大学は様々で、後期研修医は、自治医大で初期研修を終えた医師も、他病院で初期研修を終えた医師もおります。当科は県内の眼科基幹病院のひとつとして高度な医療を提供しています。白内障手術、硝子体手術、斜視手術など年間1,800件以上の手術を行っております。各分野のエキスパートが指導し、経験できる症例、内容が多岐にわたっていることが特徴です。

後期研修1年目より外来診療と白内障手術の執刀を開始します。入院患者も、上級医の指導のもと、主治医として責任をもって担当することができます。若い学年から白内障手術は難症例にも対応できるようになり、眼科救急疾患や、緑内障や網膜のレーザー治療なども一人で対応できるような力がついてきます。入局5年目には眼科専門医試験があります。その後は、専門分野の更なる習熟、学位取得、網膜硝子体手術の習熟など、興味関心とライフスタイルに合わせてキャリアアップしていきます。学会発表も盛んで、後期研修1年目より、国内外の学会での発表の機会がたくさんあります。

女性の医師も多い医局ですが、常勤の女性医師で、産休・育休を取得している医師もおります。男性女性を問わず、ライフスタイル、キャリアアップに合わせて仕事ができる職場を創出している医局だと思います。

自治医大の眼科医はどんな仕事をしているのか、学生の皆さん、ぜひ見学にいらしてください。医局員一同お待ちしております。

問題1 (105 回国試 改変)

6才の男児。就学時健康診断で両眼の視力不良を指摘されたため来院した。眼帯など遮閉を含め、既往に特記すべきことはない。視力は右 0.5(0.6x+5.00D)、左 0.4(0.6x+5.00D)。調節麻痺薬点眼後の屈折検査は右+5.00D、左+5.00D。眼位は正位。固視の異常を認めない。細隙灯顕微鏡検査と眼底検査に異常を認めない。考えられるのはどれか。

- 1 不正乱視
- 2 近視性乱視
- 3 屈折異常弱視
- 4 調節性内斜視
- 5 間歇性外斜視

答 3

- 1 →乱視はない
- 2 →近視ではなく遠視
- 3 →屈折異常（この場合は遠視）による弱視（矯正視力が0.6で6歳としては不良）
- 4、5 →斜視はない（眼位は正位）

問題2 (100 回国試 改変)

眼球運動痛を伴うのはどれか

- 1 結膜下出血
- 2 視神経炎
- 3 硝子体出血
- 4 裂孔原性網膜剥離
- 5 網膜中心動脈閉塞症

答 2

炎症のため痛みをきたす。1は眼が赤くなるのみ。3-5は視力低下はあっても痛みはない。



〈 第5回 医学教育センターだより 〉

平成30年度版医師国家試験出題基準で追加・変更された項目・疾患を中心に予想問題を作成します。

第5回は医学総論Ⅶ、Ⅷです。

医学総論Ⅶ、Ⅷの主な変更点を示します。

●医学総論：

Ⅶ 診察

二次・三次救急の診察；動脈血酸素飽和度〈SpO₂〉、ショック指数〈shock index〉、
トキシドローム

高齢者の診察と評価；フレイルの評価

Ⅷ 検査

免疫血清学検査；抗GAD抗体、抗インスリン抗体

病理組織学検査；電子顕微鏡による病理検査；固定法

生体機能検査；核医学的機能検査；甲状腺 123I 摂取率

皮膚・感覚器・発声機能検査；薬剤リンパ球刺激試験〈DLST〉

重心動揺検査

妊娠・分娩・胎児・新生児の検査；妊娠中の分泌物検査；B群連鎖球菌

画像検査；消化管造影検査の合併症、嚥下機能検査

造影剤と副作用；Nephrogenic systemic fibrosis〈NSF〉

Ⅶ 診察

予想問題 1

40歳の男性。右大腿骨骨幹部骨折のため搬入された。心拍数 120/分、整。血圧 80/42 mmHg。

推定出血量（mL）はどれか。

- a 500
- b 1,000
- c 1,500
- d 2,000
- e 2,500

正 解：c

解 説：ショックインデックス＝心拍数/収縮期血圧
 $120/80 = 1.5$ で推定出血量は 1,500 mL である。

予想問題 2

動脈血酸素飽和度 (SpO₂) 以外にパルスオキシメータで測定できるのはどれか。

- a 体温
- b 脈拍数
- c 酸素分圧
- d 二酸化炭素分圧
- e ヘモグロビン濃度

正 解 : b

解 説 : 臨床実習の成果を問う出題である。実際に測定したことのある学生には平易な問題である。

予想問題 3

フレイルの評価基準項目に含まれるのはどれか。2 つ選べ。

- a 便秘
- b 体重減少
- c 握力の低下
- d 食欲の低下
- e capillary refilling time の遅延

正 解 : b、c

解 説 :

項目	評価基準
体重	6 か月で 2~3 kg 以上の体重減少
筋力	握力 男性 26 kg 未満、女性 18 kg 未満
易疲労感	(ここ 2 週間) わけもなく疲れたような感じがする
歩行速度	1.0 m/秒 未満
身体活動	① 軽い運動・体操をしていますか？ ② 定期的な運動・スポーツをしていますか？ 上記の 2 つのいずれも「していない」と回答

該当項目数 0 項目 : 健常、1~2 項目 : プレ・フレイル、3 項目以上 : フレイル

Ⅷ 検査

予想問題 4

電子顕微鏡による病理検査の組織固定法として最も適切なのはどれか。

- a アセトン固定
- b アルコール固定
- c 乾燥固定
- d グルタルアルデヒド固定
- e ホルマリン固定

正 解：d

解 説： 第 108 回医師国家試験 B-16 で出題された。基礎臨床統合問題として今後も出題される可能性がある。

予想問題 5

腎性全身性線維症〈Nephrogenic systemic fibrosis〉をきたす造影剤はどれか。

- a SPIO
- b ヨード
- c バリウム
- d ガドリニウム
- e マイクロバブル

正 解：d

解 説：腎性全身性線維症〈Nephrogenic systemic fibrosis: NSF〉は腎不全患者に生じる四肢、体幹の皮膚の肥厚・硬化、関節拘縮、肺・肝臓・筋・心臓などの多臓器が侵される全身性疾患である。主に MRI 造影剤であるガドリニウムを使用した際に発症する致死率が約 30%である重篤な病態である。皮膚症状は全身性強皮症に類似する。

自治医科大学医学教育センター・センター長・教授
岡崎仁昭